

入間市教研

会 報 No.61

発 行 令和8年2月28日
 発行者 入間市教育研究会
 代 表 会長 小田 誠



会員の皆様のご尽力、ご協力により、令和七年度の本研究会の活動も無事に終わろうとしております。心より御礼申し上げます。また、本年度研究発表会を開催していただいた豊岡小学校、黒須小学校、宮寺小学校、藤沢東小学校、豊岡中学校、東金子中学校、上藤沢中学校の教職員の皆様をはじめ、研究に

携わっていただいた方々にこの場をお借りしまして再度の御礼を申し上げます。

さて、今年度の講演会は、会場にたくさんの方の皆様が来てくださいました。収容人数の関係で、半数の方はZoomでの参加となりましたが、会場内で実際にお話を伺うよさを、多くの方が感じたのではないのでしょうか。東京大学名誉教授佐藤学様、入間市教育委員会教育長 中田一平様のご講演は、わたしたち会員のやる気をさらに引き出してくださり、多くを学ばせていただく機会になりました。さらに、各研究部では、例年行われている意義のある活動や、内容を増やした活動など、研究部の特色を出すことができました等の報告をいただきました。今後も研究会の活動が充実したものであるようにしていきたいです。

結びになりますが、入間市教育委員会教育長 中田一平様をはじめ、各教育委員会の皆様、本会員の皆様、各校理事の先生方、そして各研究部長の先生方をはじめ、多くの先生方に本研究会の運営や事業に對しまして、多大なるご尽力いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

令和七年度講演会

「探究と協同の学びへのイノベーション」

東京大学名誉教授

佐藤 学 氏

ベルリンの壁が崩壊した頃、世界では、学校改革、授業改革が急速に進み出しました。変化のキーワードが「探究と協同」「イノベーション」です。思考…考えることは一人でもできます。探究は一人ではできません。探究は多様な思考を練り合わせる活動で、他者と協同することが必要です。探究と協同は一つの活動なのです。イノベーションも、同じ頃に世界で改革が起きています。イノベーションに欠かせないのがネットワークで、互いの思考の交流です。先生方と教室が中心です。ネットワークがイノベーションを起こす大きな力になります。

「探究と協同の学びへのイノベーション」改革は、学習環境をデザインすることです。机を三々四人グループで、互いの顔が見えるようにします。コの字型や一年生はU字型に配置するのもいいです。

次に学習課題のデザインです。課題は二つ。共有の学び、ジャンプの学

びです。「共有の学び」は教科書レベルで全員が理解してほしい学習課題です。「ジャンプの学び」は、共有の学びを発展させた学びです。正解がありそうでないような課題もアリです。困難な壁を考えを巡らせ、互いが眩き練り上げ、自分の思考を深めていく。その行為が探究と学びへのイノベーションなのです。この学習で大切なのがグループ活動で、「話し合う・教え合う」ではなく、「きき合う」活動を行うことです。本来、学びは分からないことを追求することです。分からないければ、分かたつて納得するまで「きき合う」活動をすべきです。グループ活動は、きき合いを通じ、学び合うのです。

二〇二六年ダボス会議で、第四次産業革命という言葉が初めて使われました。この革命は、頭脳労働です。会議で十項目程のスキルが今後「未来を切り拓く核心的スキル」として挙げられました。思考力や対人関係能力も重要視されました。子供たちの未来は、どう探究と協同の学びをデザインするかです。先生方の教室から、探究と協同の学びへのイノベーションが生まれることを期待しています。

令和七年度研究委嘱発表校

黒須小学校

「未来に向かって『あい』と『チャレンジ』

『リスペクト』

算数科を通して豊かに考え、ともに高まる学びの実践

豊岡小学校

一 主題設定の理由

「あい」がないところには何も成り立たない。それは、教師対児童、児童対児童、教師対教師と、どの関係においてでもある。「あい」(協同)を土台として、何事にもチャレンジし、互いに「リスペクト」し合う学級力、教職員の同僚性を育むことを目指し、本主題を設定した。

二 研究の取組

① 授業研究会の充実

教科の専門性にとられない全教職員参加型の研究会を実施

② ジャンプの課題の開発、実践

単元に二回以上ジャンプの課題にチャレンジし、学習内容の系統性、共有の課題とジャンプの課題のつながり、ジャンプの課題における児童のつまずきを検討

心理的安全性を育む学級経営

① 学びの作法の定着

発達段階に応じて学習形態を工夫し、目・耳・心で「聴く」を徹底

② 学級力アンケートの実施、活用

教師と児童が学級の現状を共有し、児童が中心となって行う学級作り

三 成果と課題

令和六・七年度の二年間で指導者を招聘しての授業研究会を十六回、日常的なジャンプの課題の開発実践を百三十六回行う、やる気に溢れた研究を進めることができ、教職員の同僚性が高まった。その中で、「わからない」が言える児童が増え、支え「あい」ながら学習を進める学級が増えた。今後は児童の声をつないで授業を構成するファシリテート力のさらなる向上を目指す。

「共に学び合い 考えを深め合う児童の育成」

一 主題設定の理由

今、学校教育には、児童が様々な変化に主体的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力が求められている。このことを踏まえ、児童の実態や社会状況の変化等を総合的に判断した上で、学校研究主題を「共に学び合い、考えを深め合う児童の育成」と設定した。そして、研究の柱に「学び合い学習」を据え、児童が互いの考えを聴き合い、認め合いながら、自分の考えをさらに深めていく姿を目指した。

二 研究の取組

①「学び合い学習」を基盤とした授業改善を行う授業改善に向けて、学び合い学習を実践し「茨城学びの会」代表の根本光子先生をお招きし、指導助言を頂いた。また、個の学びを大切にしつつ、豊かな学びをめざすこととで研究主題に迫ることができた。

そのために、



児童が主体的に取り組んだ自主学習ノートを「グッドノート」とし、

リーバーやすぐるで配信した。

また、たくさん提出した児童にオリジナルカードを配付するなどの

意欲付けを行った。

②「たつじんテスト」を通じた基礎学力の定着

基礎学力定着のために「たつじんテスト」に取り組ませ、児童のつまづきの原因を把握した。また週二回の業前に「たつじんタイムを設定し基礎学力を図った。

三 成果と課題

① 学習形態(ペア、グループ)と学習課題の工夫が全学級に浸透し、学び合い学習が充実した。

② 自主学習ノートを工夫することで家庭学習の習慣化が図れた。読書習慣の定着については課題となっている。

③ 「たつじんテスト」の取り組みを通じ、児童のつまずきの原因が明確になった。テストを活用し、指導方法の改善を図ることが今後の課題である。

「楽しい授業の追求 学び合いを取り入れて

個別最適な学びを進める授業

算数科の指導を通して

宮寺小学校

一 主題設定の理由

埼玉県学力・学習状況調査の結果より、本校の児童は、自分の考えを伝えることに自信がないことや短答式・記述式の正答率が低いことに課題があった。

そこで、児童の参加を促す楽しい授業が不可欠だと考えた。算数科の指導を中心に学び合いの視点を取り入れることで、児童が考えを伝え合っている学力を向上させることができるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

二 研究の取組

「楽しい」授業について児童の声を聴き、「楽しい」授業の理想像を設定した。また、学び合いの授業の中で、共通実践事項ウルトラ7をすべての学級で取り組んできた。

①「聴く」ことをベースに心理的安全性を確保すること

②「ふりかえり」から、意欲を喚起する課題を設定すること

③授業開始五分以内に学習活動スタートすること

④「訊く・聴く」ことでグループ内

の一人も取り残さないこと

⑤一人一人のよさを認め、広げ、さらに褒めること

⑥つぶやきを取捨選択して拾い、さらに褒めること

三 成果〇と課題△

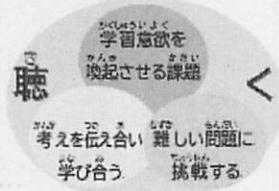
○「聴く」ことを大切にすることで、分からないことを質問しやすい雰囲気が高まり、困った時に訊ける児童が二十％増加した。

○考えを分かりやすく伝えることができる児童が十％増加した。

○習熟度別学習でジャンプ問題や個別最適な学びを進め、低位の児童の学力向上が見られた。

△さらに「聴く」ことを意識した授業を低学年から系統立てて継続していく必要がある。

△児童の言葉をつなげることや図や表から読解したことを書き込むこと等、「つながり」を意識した授業を共通実践し、学力の定着を図っていく。



「自分の考えを表現し、学び合う児童の育成」

安心の中で生まれる対話を目指して

藤沢東小学校

一 主題設定の理由

本校の実態として、自分の考えを他者に伝えることに苦手意識を持つ児童が多いことに課題があった。誰にとっても安心した学びの場をデザインしたり、学び合いやICTを活用した学習を行ったりすることを通して自分の考えを表現する力を高めたいと考え、本研究主題を設定した。

二 研究の取組

安心部、学び合い部、ICT部に分かれて研究に取り組んできた。

(安心部)安心バイブル、教職員安心チェックシートを作成し、児童の安心だけでなく、職員の安心についても考えた。

(学び合い部)学び合いQ&A、学び合い東小版を作成し、学び合いとは、「他者との対話を通して、自己の考えを広げ、深める学習活動」と定義した。(話ではなく、輪相手と輪ができていけばよい。)

(ICT部)全教室の壁にテレビを設置、オクリンクプラス研修、情報

共有会の実施

(全体)チームアップ研究会(四人組で個人研究で実践したことの報告・相談)、

自主研修
会Ecafe

の実施(テーマについて

自由に対話する。)

三 成果と課題

○担任だけでなく、養護教諭や事務、栄養教諭なども意見を出し合い、誰一人取り残さない学校研究を行うことができた。

○児童へのアンケート調査では、「グループで話し合っ課題を解決したこと」や「学習中「分からない」と言いやすい雰囲気か」という項目が昨年度に比べてアップした。

△基礎的な知識・技能の習得に課題が見られ、個に応じた習熟の学習などが必要である。



「一人残らず子どもの学ぶ権利を実現し

その学びの質を高める」

「学び合い学習」個人研究を通して

豊岡中学校

一 主題設定の理由

平成二十四年度から『学び合い学習』に取り組み、本年度で十四年目を迎えました。継続だけでなく、更にレベルアップを目指す取り組みとして原点である『一人残らず学ぶ』理念を見つめ直した。

二 研究の取組

①「質の高い」授業とは

漠然と学び合いを取り入れて授業を行うのではなく、どのような状態(生徒・教師)が質が高いと言えるのかを、サテライト授業や推進校を視察してひとつの形として構築できた。

②「学級経営」を共有する

心理的安全性が担保できる学級経営はそれぞれの教師が工夫している。その工夫を全員で共有し、学び合いのスタイルと融合することで、持続可能な「豊岡中スタイル」が出来上がる。その教室で生まれる関係性が学び合いを更に醸成させる。

一人では解決できなくても、協同的に取り組むことで解決できるジャンプ課題について各教科、更には教科を超えてアイデアを出し合いながら授業実践しブラッシュアップすることができた。

地球儀を使った学び合い



三 成果と課題

職員全員が校長、研究主任のリーダーシップの下、豊岡中のスタイルをより良くしていこうと一丸となることができた。今後、更に「全ては生徒の幸せのために」を実現すべく、「チーム豊岡」として 研究と修養に励んでいきたい。

「効率的な研修体制づくりを通じた

『学びあい学習』の実践」

「効率的でサステイナブルな研修で『学びあい』のシン力を」

東金子中学校

一 主題設定の理由

学びあい学習もカタチになつてきた今、さらなるレベルアップを図るべき内容を、効率的でサステイナブルな研修を考え、構築していく中で獲得していこうとした。



二 研究の取組

・研修体制について

効率的で持続可能な研修体制づくりに向けてサンフレッチェ部会(研究発表に向けた今年度限りの部会)を開催し、教師が主体的に管理・運営を行う。

①カジュアル研究授業部会

- ・指導案ナシ・研究協議ナシの簡易研究授業・
- ・一人二回のカジ研実施目標
- ・道徳・学活のカジ研も行う
- ②談話室・マドガワ部会
 - ・職員室窓側スペースを談話室として打合せ
- ・教科部会だけでなく領域部会

でも活用する

- ・学校行事や学年の打ち合わせ等にも活用する
- ③テラコヤタ部会
 - ・職員が講師のミニ研修
 - ・年間計画の中に組み込み、放課後に実施する
- 学びあい学習の実践
 - ・研究ではなく実践

①「見てもらう」機会を増やす

- ・カジュアル研究授業
- ・校内授業研究会(焦点授業)
- ・指導訪問
- ②研修サンフレッチェの活用
 - ・考える、試す、振り返る、改善する、の繰り返し
 - ・テラコヤタで本校の学びあい学習について伝達

三 成果と課題

誰か一人に負担がかかるような形をとることなく、全員が主体性をもって研修に取り組みることができた。今年度つくったカタチを形骸化せずマイナーチェンジを加え、持続可能な形で継続していく。

「自分を磨き仲間と伸びることが出来る
学び合う学級の実現を目指して」

上藤沢中学校

一 主題設定の理由

研究を通して、教員が生徒理解をより深めながら、心理的安全性の担保された学級を実現し、落ち着いた環境の中で、互いに学び合い、高め合う生徒の育成を目指す。

二 研究の取り組み

- ① 谷井茂久氏を招聘し、講演指導・助言をいただいた。
- ② フォーカス授業を二回実施
- ③ 研究授業一人一回実施
- ④ 小中合同で学び合いの研修
- ⑤ 地域と保護者を交えての「茶MO」の活動

三 学び合いの取り組み実践事例

◎1年技術「製図のルールと書き方」

探究の学びの実践を図れる共有の課題とジャンプ課題

・学び合い学習を取り入れる意図設計(製図)の場面では、色々な発想や考え、表現力が求められる。勉強が得意不得意に関わらず多くの生徒のアイデアや力が発揮で

きると題材と捉え、学び合い学習を取り入れる。

〔成果〕

・生徒がただ聞くだけの受け身の授業を脱却して、自分で考え仲間と学ぶ姿勢が身についた。

・様々な場面で学び合いを取り入れることで、生徒が「わからないことを言つていい」などの心理的安全性を確保することができた。

・生徒一人一人を認める・できないでなく、どう考えているかで見える力が養われた。

〔今後に向けて〕

・グループで「話すこと」が目的になり、内容の深まりが伴わないケースが出てしまう。

・「ジャンプの課題」は難易度を考えないと、生徒の考えを引き出すことにつながらない場合があるので、考え方が広がる挑戦する必要がある課題を設定しなくてはいい。

令和七年度研究委嘱校(一年次)

『進んで学び合う』

児童の育成

算数科を中心に、

学び楽しさを実感させる

授業実践2)

狭山小学校

一 主題設定の理由

昨年度も研究委嘱を受け、学校全体で「学び合い」を取り入れた授業の授業研究に取り組んできた。児童のよい変容も見られるようになり、成果も上がった。それを継続し、出てきた課題についてさらに深く研究を進めるため、引き続き、『進んで学び合う児童の育成』をテーマに研究を進めている。

二 研究の取り組み

研究授業を主な取り組みとし、各担任一人一授業研究会を設定した。各ブロックごと、指導者の方にご指導をいただき、授業改善を行った。

三 次年度へ向けて

児童アンケートによる分析や今年度の取り組みの振り返りを行い、出た課題を次年度へとつなげていく。また、ジャンプ課題についても内容や回数などの見直しを行い、より効果的な活動としていく。

『自ら考え、お互いに』

伝え合い深め合う

児童の育成

学び合いを通して

仏子小学校

一 主題設定の理由

一昨年より「学び合い」の授業を実施してから、児童の自己効力感が高まった。そこで、本校では非認知能力を高めることで学力が伸びると考えた。

二 研究の取組

本年は、教師一人一人が選んだ教科で学び合いを進めている。五月には、学びの共同体スーパーバイザー・谷井茂久先生を迎え、各教科での学び合いの手法を学んだ。再び九月に谷井先生を迎え、国語の授業に挑戦した。聴き合う関係、物語文の型、教材との対話を学んだ。今後は、一月にも谷井先生を迎え、低学年の国語の授業に挑戦する予定である。

三 次年度への課題

県の学力学習状況調査では、認知能力に課題が見られた。基礎基本の習熟と、学び合いでの思考・判断・表現力を育成していきたい。

研究部研究の成果

『すべての生徒の可能性を引き出す学び』
 ～基礎・基本の定着、学び合い、協働を通して～
 金子中学校

『自ら考え、自ら行動する生徒の育成』
 ～一人一人が自己決定できる～
 西武中生、西武中学校

一 主題設定の理由

本校の実態として、自分の考えを他者に伝えることに苦手意識をもつ生徒が多い。授業では、導入を大切にし、基礎・基本の定着を図りながら、学び合い活動を授業の中に取り入れた。自分の考えを表現する力と協働する力を高めていきたいと考え、この主題を設定した。

二 研究の取組

- ① 谷井茂久先生を3回招聘し、講演・助言をいただいた。
- ② フォーカス研究授業年2回
- ③ サテライト授業一人1回以上
- ④ 学び合いの校内研修
- ⑤ 埼玉県学力・学習状況調査の分析と考案の校内研修
- ⑥ 研究主任を中心に、学び合い授業や講演の出張に参加

三 次年度に向けて

日々の実践や研究授業を通しての課題を共有し、教員自身の授業力向上を図る。また学び合い活動の在り方を追求し、発表する。

一 主題設定の理由

本校は入間市初の統合校。旧西武中学校と旧野田中学校が一つの学校となった。学校の行事がすべて初めての取組であり、生徒会活動や学校行事等の中で生徒が主体となった活動を教職員は後押し・支援していく。主体的に取組める生徒を育て、支援していくために、教職員は日常の授業では学び合い活動の機会を設け、生徒中心とした授業改善を図っていきたくと考え、この主題を設定した。

二 研究の取組

- 生徒主体の活動
 - ・ 開校式～杉山勝彦さんに全校生徒で校歌披露～
 - ・ 第一回体育祭～結団式・団練習・エール交換等生徒主体で企画・運営～

三 次年度に向けて

市制施行六〇周年「緑翠の中」プロジェクトに向けた取組で全校生徒による創作ダンスや生徒主体となる学び合いの推進も図る。

学校経営

藤沢中学校

校長部会では、「学び合い、高め合う、共に成長する入間市校長会」、教頭部会では、「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」をテーマに入間市学校教育の推進に努めてきた。校長研修会では、情報交換や意見交換及び学校経営力の向上に向けての実践発表、委嘱研究発表校視察を実施した。

国語

金子中学校

今年度の国語科教育研究部は、昨年度に引き続き授業研究会を行うこととした。

以前から本研究部では年間のテーマを決め、小中学校がそれぞれ一校授業を公開し研究協議を行っている。今年度のテーマは前年度に引き続き、「学び合い教育」をテーマに研究を行った。

二月の校長研修会では「ウェルビーイングの向上を目指すコミュニケーション～クール～安心・安全・協働・つながりを活かして～」の一月の教頭研修会では「学校を核として、地域づくりの実態と今後について考える」をそれぞれテーマとして発表をし、教育長をはじめとする市教育委員会教育委員の皆様にご指導いただいた。今後も両部会が協力連携し、入間市の教育の推進に努めていきたい。

中学校では、西武中学校にて、研究授業を実施。研究協議では、「主体的な態度の評価について」「学び合い教育」の二つの視点からグループ協議を行った。

授業担当校のご協力もあり、充実した研修を行うことができた。

算数・数学

算数・数学部では、四月に入間地区算数・数科学力調査を実施し、その後に事業計画の確認を行った。六月には調査結果速報が各学校に届き、生徒の現状を把握しその結果を基に、各学校で授業を展開することができた。

十一月に金子中学校で研究授業を行った。生徒はとても真剣に問題に向き合っていた。また「算数・数学科における学び合い活動の現状」について協議を行った。学び合い活動の頻度やどのようなジャンプ課題を設定しているのか等の情報交換を行うことができた。また「学び合い」と「教え合い」の違いがわからないことが話題になった。指導講評時に、準備していただいたジャンプ課題を通して、実験することにより、その二つの違いを理解することができた。改めて学び合い活動の良さを確認することができた。

十二月には、来年度の入間地区算数・数科学力調査の申し込みを行った。

特別活動

特別活動部では、四月に顔合わせ・事業計画の立案、七月に入間地区特別活動研究会夏季研修会において実践報告発表、八月に中学校生徒交歓会を行った。

入間地区特別活動研究会夏季研修会では、藤沢東小学校の実践を発表した。「児童一人一人が主体的に考え活動していく児童会活動」をテーマに、児童会の年間活動や学校掲示板の活用について等、発表した。挨拶の向上と他学年との交流を目指して取り組んだ「あいさつ仲よしビンゴ」は、児童のアイデアを活かし、楽しく学校生活を向上していくことができる活動であり、参考にした取組であった。

中学校生徒交歓会は、ZOOMで行われた。前半は各校の活動を紹介し合い、後半はSDGsを意識した取組の活動例を共有した。特に後半の時間では、積極的に質疑応答をしい、それぞれの学校同士でも有意義な時間とすることができた。

保健主事

保健主事研究部では、四月に顔合わせ・事業計画立案を保健研究部とともに、九月に入間市学校保健会講演会への参加、一月に保健研究部との合同講演会を実施した。

入間市学校保健会では、埼玉医科大学病院の光藤尚先生の講演に参加し、「起立性調節障害のこどもへの対応」という演題のもと、片頭痛や脳脊髄液漏出症など、頭痛を伴う症状全般に関して、実例を交えてお話を伺った。日々の保健室対応や教育現場での子供たちの支援に役立つ内容であった。

保健主事・保健主任合同講演会では、スクールカウンセラーの美和健太郎先生をお迎えし、「やる気スイッチの押し方、教えます！」という演題のもと、児童生徒がやる気になる声掛けについて、今までの経験を交えたお話を伺った。児童生徒への声掛けは、心の健康にも大きく影響してくべの教員のためになる内容であった。

教育心理・教育相談

教育心理教育相談研究部では、西部地区「夏季研修会」に参加した。「教育相談とこころを育てるリレーションづくり」について明治大学文学部教授富祥彦先生に講演をしていただいた。具体的な事例からどのようにリレーションづくりをしていけば良いのか教えていただいた。実際にグループになってコミュニケーションをとりながら実践的な方法を教えていただいた。

また、冬季講演会では千葉大学大学院医学研究教授清水栄司先生に「認知行動療法を活用した教育相談とストレス対処」についての講演をしていただいた。その中で、学校でも使える問題解決法を教えていただき、児童生徒への対応の仕方を学ぶことができた。どちらの先生の講演も大変参考になるものとなった。

二月には、スクールソーシャルワーカーの方から日々のお仕事についてもお話しいただいた。

安全教育

安全教育研究部では、「生徒が自ら安全を確保することができ、基礎的な資質・能力を継続的に育成する。」という目標に向けて研修を進めてきた。

十一月に入間地区の授業研究会が、金子中学校で行われた。中学生が、心肺蘇生法やAEDの使い方を消防署の職員の方から学ぶという実践的な内容で研究を進めることができた。また、授業研究会の中で避難訓練の在り方についての話題があげられた。参加した安全教育主任より、各校に伝達をし、より良い安全教育の実践に繋がっていききたい。

次年度からも、児童生徒の安全意識向上に向けた研修を進めていきたい。

学校栄養

学校栄養研究部では、夏季研修会で入間市博物館の学芸員とヤマキユウ中島園の中島克典氏を講師にお招きして、狭山茶についての研修を行った。

研修では、狭山茶の歴史や特徴、入間市と狭山茶の関係、おいしい狭山茶の淹れ方や楽しみ方について学んだ。研修を通して、狭山茶についての理解を深めることができた。

今後、給食や食に関する指導を通して、子供たちに狭山茶の良さを伝えていきたい。

学校事務

学校事務研究部では、事務共同実施と合同でシステム担当者とオンライン接続し、学校徴収金に関する研修を実施した。

今回はシステムの概要説明が中心であった。引き落としに向けた段取りの変更や再振替の有無などの説明を受け、来年度に向けて新たな運用方法を検討し、誤りなく実施していくことの難しさを改めて認識する機会となった。

今後、システムの稼働に伴い新たな課題が生じることも想定されるため、事務職員間で情報共有を図りつつ、必要な対応を検討していく予定である。

進路キャリア

進路・キャリア教育研究部では、各学校の現状を踏まえ、よりよい進路指導・キャリア教育を推進するために、小・中学校に分かれ、研修や情報交換等を行った。

小学校部会では、情報共有を中心に行った。特にキャリアパスポートについての活用や、市内共有のキャリアフォルダの活用について反省等を行った。学校間で内容項目や取り組み方に多少の違いはあったものの、中学校へスムーズにつなげていくための方策について有意義な意見交換を実施することができた。

中学校部会では、主に三年生の進路指導と進路事務に関する内容について情報交換及び、共通理解を図った。県公立入試における調査書の記載内容や、電子出願に関する事項について確認した。特に今年度より変更となる部分について、各学校間で差が出ないよう、共通理解、共通認識を深めた。

出し合った意見や課題を踏まえ、次年度以降の活動を更に充実したものにしていきたい。

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間研究部では、例年、四月に顔合わせや事業計画の立案、二月に実践報告・情報交換会を行っている。

今年度は、生活科と連携して総合的な学習の時間の研究協議会を実施した。各校における地域の特性に応じた実践について情報交換をすることができた。

二月の研修では、授業におけるタブレットを用いた実践紹介をおこなった。また、各校のタブレット使用時の工夫や実践例などについて情報交換を行い、次年度以降の活動をさらに充実させられる協議した。

